



発行所 香川自治会広報委員会
印刷所 (有)スエカネ印刷

茅ヶ崎市の総合防災訓練 陸上自衛隊が初参加

「防災の日」の9月1日、県内各地で地震や津波を想定した防災訓練があった。

茅ヶ崎市では、室田小学校を会場として、午後一時から松林地区の住民の方たちが、自治会単位で参加。広報委員も訓練を見学した。

先ず、現地対策本部が設置され、根本市長の挨拶の後、避難誘導訓練から始まった。

日曜日だったので、乳母車に幼児をのせたり、子供の手をひいたりする家族づれも目立った。

起震車が用意され震度体験訓練をする人もいた。道路橋梁など復旧用重機も集結して真剣味も加わる。救援物資輸送訓練では、トラックの到着と共に係の方たちが指



屋上の人を救出する

揮に従ってすばやく行動。所定の場所に搬送した。水道施設の復旧や、ろ水機の取り扱いの訓練では、選ばれた自主防災の人たちが実際に操作し、ろ化した水を試飲した。汚れた水も簡単な操作できれいにし、全く臭みもなかった。

給食訓練では自衛隊の野外炊具が使われた。1トントレーラーにガソリンエンジン、エアコンプレッサー、バーナーを搭載。野外で20人分の主・副食を同時に50分以内で作れる。走行中でも炊飯できる。自衛隊員が市民と共に炊き出し、おにぎりを握って給食訓練をした。倒壊した家屋から中にいる人を救出したり、けが人を担架にのせて救護する訓練や、校舎内で煙にまかれて助けを求めている人をロープを使ってよじ登り救出したり、屋上で手を振って助けを求めている人を、ハンゴ車で機敏に助け出す緊迫した状況も見られた。ハンゴ車に宙吊りになった人が無事に救護されると、見物人たちが一斉に拍手をし、みごとな行動に感心した。

訓練ということで、一般観衆は見物気分の所もあったが、実際になつたら今日のようにすべてがうまくいくかどうかと不安な気もした。



ろ水器の实地指導

た。いざという時に慌てないように、ふだんの心がけが大事だと痛感した。約二千人が参加したそうだが、今日の訓練は貴重な体験だったと思う。

防災袋の中身

(1) 基本型

ラジオ、医薬品、水2本、乾パン、みかん缶詰、ご飯、止血帯、懐中電燈、ポリ袋、トイレの紙、筆記用具、笛、缶切り、箸、匙

(2) 非常食

やき鳥、牛肉、コンビーフ、火を使わず食べられる物、お茶

(3) あれば助かるもの

入れ歯、めがね、補聴器(予備) お金(小銭で1万円)、預金口座コピー、家族写真、連絡先・避難先の地図、水なしシャンプー、ウェットティッシュ、さらし一反

NHKで行ったアンケートの結果では、(1)懐中電燈(2)食料品(3)ラップ(4)ビニール袋(5)ラジオの順でした。ポリタンク、カセットコンロも必要で水は1日3ℓ必要。3日間の水と食料を用意する必要がある。ポリタンクは空気を入れぬように注意し、黒ビニールでおお

い、冷暗所に置き、3ヶ月位で塩素の漂白剤で洗い、水を交換する。(4)防災袋の置場所は、玄関か物置

地震の心得10か条

(防災白書などによる)

(1)まずわが身の安全を図れ

あれからもう10年になる。穏やかに晴れた日で、私は校長室でノンビリと執務していた。昨日は七

五三の日曜日、神社や寺は賑わったろうな、と取りとめもない事を考えていた様に思う。突然、学校

中の扉がビリビリと震動した。警えていうなら、誰かが扉に連続

体当たりをした様な衝撃だった。廊下へ飛び出して見ると、方々の部

屋から職員が廊下へ出て、不思議そうな顔をしている。何があった

んだ……わかりません……地震でもないし……すごかったね……

この丁度一年前、61年11月15日に大島三原山が200年ぶりの大噴火

をしている。一週間後の21日には熔岩流が元町を襲い、一万人の全

島民が一ヶ月の避難生活を送った。夜になってTVの実況中継を見て

いても、衝撃波で障子が何度も震動したと日記に書いてある。茅ヶ

崎海岸からも噴火の火が目視できた。その一年後の再噴火の衝撃波

だったのである。大島は茅ヶ崎から60km南にある。

この三年前、58年10月には三宅島が噴火し、熔岩流で民家数百戸

消防委員会の行事

- 9月1日 茅ヶ崎市総合防災訓練
中央公園、松林、小出、松浪各小学校の四会場
で。
- 9月10日 庶務担当研修
- 9月15日 定期訓練・無線試験通信
- 9月下旬 早期訓練(器具及びポンプの点検)
- 10月15日 定期訓練・無線試験通信
- 10月16日 普通救命講習
- 10月22日 正副分団長会議
- 10月下旬 早期訓練(器具及びポンプの点検)

忘れたころに

町田 正

と機会を狙っている様な気がする。というのは考え過ぎだろうか。伊東から箱根は北へ30km、富士山は北西へ50kmしかない。

富士山は有史以来10数回の噴火が記録されている。その間隔は10年足らずから70年位が多いが、140年も400年も沈黙していたこともあ

る。地球にとっては50年も100年も、まさに五十歩百歩なのである。今すぐ火を噴いても、噴火史上少しもおかしきはない。三大噴火の一

つで最大の噴火だった宝永からは200年経った。この時の被害は甚大で、堆積物だけでも山麓の須走で3m以上、小田原で30cm、茅ヶ崎でも10cm位あった。今でも畑の下を掘ると真黒な砂が出てきて富士砂と呼んでいる。この砂が積っていると畑の作物が全く育たないので、集めて畑の隅に穴を掘って埋めたと記録されている。富士山は茅ヶ崎から60km西にある。それ程近い。「災害は忘れた頃にやってくる」と言ったのは寺田寅彦だったが、災害も歳月たてば必ず忘れてしまうのが人間だ、ということも真実であろう。以上の噴火の事例でもわかるように、地震だつて今すぐ起きても不思議ではない。だからどうする、という問いについては新聞や広報に度々載っていることなので今更喋々する気はない。災害が起きてから救助や救済の不備を批判することが多いが、それより最低一週間は自力で生活できる工夫をすることが大切だろう。

後は災害が起きないことと、運がよいことを願うだけである。

諏訪神社の大幟

明治の書家 西川春洞の書



七月二十七・八日行われた諏訪神社の祭典には、拜殿の前に堂々とした大幟がたてられました。この幟はたいへん由緒あるもので、ご紹介します。

幟ができたのは明治30年（一八九七年）12月。来年で丁度100年になります。

字を書いた方は、西川元謙さん。号は春洞。明治時代に日本の三筆といわれた最高の書家です。

弘化4年（一八四八年）1月25日、江戸に生まれ、大正4年（一九一五年）8月10日、67才で逝去されました。この書は春洞氏49才の作品です。

お子様の西川寧氏は、昭和60年10月に書家として文化勲章を受賞。幟には、

赫威誅横邪、鴻恩福正直、春洞西川褒豊瀨拜書

と書かれています。

読みかたは、赫威横邪を誅し、鴻恩止直に福す。

「光り輝くご威光は、よこしまな者を罰し、大きなお恵みは、心の正しい人に、さいわいする。」といういみです。

この幟を掲げる桿に飾りつけられてきた一対の木彫りは、明治30

年に大きな樺材を使って棟梁の奥井良助さんと柳川勘五郎さん（治郎さん祖父）が作ったものです。

彫工は大和信陽齋さん。獅子は千俣の谷に子を落してきびしく育てるといふこの唐獅子の彫刻は、他に類を見ない精巧なもので、社宝として大切に保管されています。

祭礼の日には、話を聞いて他町から幟を見にきて、写真を撮っていった方もありました。

この幟の立て方はむずかしく詳しく知っているのは柳川治郎さんだけだそうです。

そこで記録しておくことにしました。

幟の立て方

柳川治郎

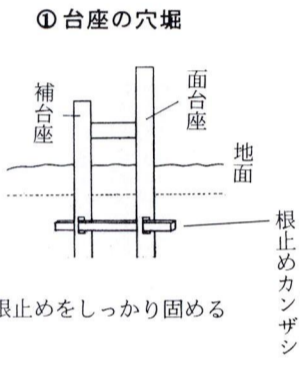
物体が大きい。その上に重い。おまけに長い体をしている幟の主幹は大事なもので、疵などつけたら大変な事なので、注意に注意を重ねて作業しなければならぬ。特に主幹の上方に取りつける榊の小枝。母体には、幟の主体ともいえる大きな字が書いてある。布を上



社宝の獅子の彫り物

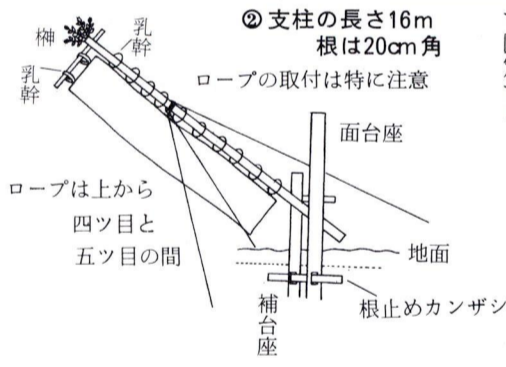
げ下げする細いロープの取りつけなど、面倒な作業がいくつもある。面台座、補台座を定位に穴を掘り下げて、台座の下部を土で固くしめつける。以上、台座ができた後、主幹を台座の穴に合わせて、カンザシを入れる。

主幹には上から乳幹が九つあって、四つ目と五つ目の乳幹の間に引綱三本を結びつける。（ロープ



① 台座の穴掘

の取りつけは特に注意）結び目が外に出ないようにする。それは幟の布を上げ下げするのに、乳幹のコブにかからないようにするためだ。主幹が完全に立て終えたならば、三本の引き綱を三方に伸ばして固定する。



② 支柱の長さ16m 根は20cm角

主幹が定位置に取りついたら、音頭りの声に合せ、20人か30人が1人になったように動作する。

盆踊りで親睦の輪



8月10・11日の二日間、第一青少年広場で、平成八年度の盆踊り大会が行われ、多くの人とふれあい親しむことができました。一日目は、団地祭りや寒川の花火大会のせいか、例年より少ない感じでしたが、二日目は三重の輪

戦没者 慰霊祭と 茅の輪くぐり

茅の輪くぐり

8月14日、午前9時から恒例の戦没者慰霊祭と、茅の輪くぐりが行われました。

ご遺族や自治会役員、神社役員等が昇殿して礼拝。戦没者の霊を慰め、平和を祈念しました。

続いて神官を先頭に茅の輪を∞の字型にくぐり、お枝をしましました。茅の輪くぐりは、心身の汚れを除くための行事です。

お枝の時に用いる厄除の具が茅の輪で、参詣者が輪をくぐって無病息災を祈ります。

京都祇園社の蘇民将来の故事からきた習俗だそうで、「大板」「夏越祭」ともいいます。寒川神社では、6月30日に大板として行っています。

この茅の輪は、12日に神社役員の方たちが8時にお宮に集まり、一生懸命作って下さいました。茅の生えている所が年毎になくなり、刈り集めるのに苦労されているようです。

どのようにして作るのかを取材しましたのでご紹介します。

- (1) 材料のカヤを刈りに行き、境内に広げて選別をします。
- (2) 塩化ビニール管で輪を作り、カヤをまきつけてゆきます。
- (3) 縄でしっかりとゆわえます。
- (4) 中心を支柱に結びつけます。
- (5) しめ縄を張って出来上り。



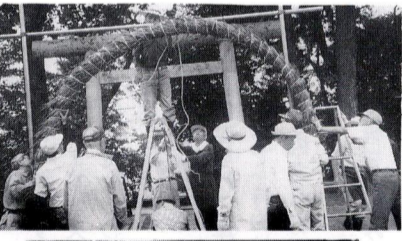
① カヤの選別



② カヤを輪にまきつける



③ 縄で固定してゆく



④ 支柱に結びつける



⑤ 出来上り



⑥ 神官と茅の輪をくぐる

特集 高齢者にインタビュー

第一町内会

城田サワ様

城田サワさんは、明治34年11月12日生まれ、もうすぐ95才です。昭和19年にご主人は五人のお子さんを遺して他界されました。戦後の混乱の中、いろいろな仕事をしながら子育てをされました。今までで一番印象に残っている

ことは戦争体験と言われます。楽しかったことは、友達と旅行した事。趣味はお手玉作りと水彩画。お手玉は布団生地を使い、野で摘んできた数珠玉を乾かして詰める。50個とか100個作ってはバザーに出品して高齢の方の作品として好評を博したそうです。絵画は80才になってから独学で画き始め、85才で止まりましたが、もっと早く始めていれば良かったと、残念そうでした。丁寧に描かれていて色使いも良く、どの絵もすばらしいと思いました。

長寿の秘訣は、好き嫌いのない食生活でしょうか。息子さんの工夫した献立は、魚と野菜を主とし、お酢や植物油を使うなど健康を気に遣って調理されているようです。又じっとしているのが嫌いで、いつも手先を動かしているそうです。ご自分で身仕度をされて写真に収まって下さいました。



城田サワ様

長寿の秘訣は「(1)あまりよくよくしない(2)身体を動かす(3)好き嫌いなく何でも食べることかな」と語られた水野菊次さん(明治40年2月富山県上市の生まれ、89才。)次枝さん(大正3年7月生まれ、82才)をお訪ねしました。「朝は5時半迄には起床、草むしりや庭木の手入れをしゴミを燃して埋める。朝食は7時半。毎日身体を動かし、半日は外、半日は新聞やテレビを見て10時に寝るのが日課。規則正しい生活をしている。

水野菊次様・次江様ご夫妻



野菜は何でも皮ごと食べ、大根やカブも葉を捨てず、魚も猫にやる所がない位きれいに食べる。毎朝10cm位の人参をすって酢小さじ1、ゴマ油2、3滴、すりゴマ小2、3杯を混ぜて食べる。大正10年上京して関東大震災にあった。三宅坂の職場から出られず地震のおさまった隙にとびだしお濠の石垣の崩れるのを見ながら帰った。あちこちに火の手が上がり宮城広場は避難の人で溢れた。上野の山に避難したことなど印象に強く残っている。長崎で入社、戦争で二度応召。中国や南方方面で従軍。二年間抑留生活をしたが復員後73才まで会社に勤務。性格が明るいし

第二町内会

金場ヤマ様

明治38年12月29日生まれ、91才。八月中旬にお宅へ伺うと、玄関迄笑顔で迎えて下さいました。○長生きのコツ

お日様に当り畑仕事をやる。良い空気を吸い畑で会った人とおしゃべりするのが楽しみ。最近、骨折して畑へ行けないのが残念です。○昔の思い出
映画を見る事が楽しみで、子供をおぶって良く行った。「愛染かつら」が一番印象深い。○現在の楽しみ



金場ヤマ様

編物をする事。ただじっとしている事が嫌いで、靴下を編んで人様にさし上げ喜ばれています。○食物
好き嫌いはない。苦手な物も栄養と思えば食べるようにしている。金場さんは毎朝5時に起き、玄関と前の道路を掃除するとか。耳も目もしっかりして、とてもお元

第三町内会

熊沢コエネ様

長生きの秘訣は(1)身体を動かすこと、(2)野菜が好き、(3)よくよめない。する気のない者にいつてもしょうがないから。(4)身の周りのものは自分でしている。(5)身体が動かなくなったら若い者に世話にならないように気をつけている。生まれは新潟県で現在の上越市。明治37年11月生まれ。92才。「香川に住んで50余年。ふとした



熊沢コエネ様

縁がきっかけで嫁ぐことになった。故郷を出て澎湖島や台湾にもいたので、アモイも知っている。京都にもいたし、陸軍大佐のお邸にお勤めした。いろいろ苦労をしたけれども、どんな辛いことがあっても、今に見ている、という気持ちでじっとがまんした。困っている人は助けてやり、他人のために一生懸命尽くした。人に施しをすればいつかは報いられるという言葉通り、皆さんから慕われよくされた。若い時の苦労が今報われて、今が一番幸せだと思っている。」と語られた。

政治は好きで政党政談会など聞き、ドラマや時代劇は興味がない。目は覚めてもラジオを聞いており、8時頃床を離れる。週三回は浄心寺へ参詣掃除。「気楽が一番」と語られた。

第四町内会

熊沢茂吉様・文江様ご夫妻



明治38年12月18日生まれ、91才。熊沢茂吉さんは、創業百二十余年を迎える、熊沢酒造の四代目に当る方です。奥様は明治43年1月生まれ、86才。

現在、家業は御息、お孫さんにまかせ、趣味のやきものとパソコンを楽しんでいます。特にパソコンで描く水彩画は、NTTアートセッション'94に出品された「夢」が、シニアの部で最高賞を得ました。生涯学習として89才で始められた、パソコンの水彩画は、時を忘れるほど熱中するそうです。長寿の秘訣など次の事をお聞きしました。

- (1)健康の秘訣
趣味を持つこと。
体を動かすこと。散歩。時には買い物や調理もするそうです。好き、嫌いな食べること。
- (2)思い出に残ること。
関東大震災(大正12年、中学生時代)、戦争
- (3)楽しかったこと。
数多くの海外旅行の中でも、もう一度、行って見たい所は、エジプトのカイロ。ピラミッド、民族舞踊の音と照明、光に感動されたそうです。
- (4)今一番、楽しみにしていること。
10月に開業予定の、「湘南蔵元地ビール」工場の完成。

そのあいまに陶芸と、若い人も顔負けのファイトが、長寿の秘訣なのではないかと思えました。

新倉フサ様

新倉さんは明治38年10月生まれ91才。大正15年節分に結婚。赤羽根のはずれから香川迄、花嫁姿で歩いて来たそうです。「養蚕や苺などたくさんやっていたのでよく働き、苺を背負って夫と一緒に横浜迄出荷に行った。一日に二回行く事もあったが香川駅の傍迄行く「早く乗れよう」と駅員が声をかけ、電車が待っていてくれた。苺が値がよく売れた時は、市場で魚を買って帰ってきた。桑畑が一町歩あったので、桑をたばねて縛るのが一番辛かった。趣味は何もないけれど、働くことかな。本当によく働いた。これが健康のもとかも。

夫とはいとこだったので、気心も分っており、糸とり講習会や生まゆを煮たりなど、多勢の人がこの家に集まった時に、私も参加して一生懸命働いたのを、おじいさんやおばあさんが見て気に入って嫁に欲しくなったようなので、気がねもなく良かった。

二人だけの時は子供時代の呼びかたで名前をいいあった。北海道や新潟、山形、富山などあちこち旅行に行ったのも楽しい思い出。90年余の人生を振り返って懐しそくに語るフサさんの顔は明るく、いつ迄もお元気で願って、おいとましました。



新倉フサ様

歌や踊りなどを楽しむ

恒例の敬老大会

9月22日(日)午前10時から午後2時まで、農協会館老人福祉センターで恒例の敬老大会が開催されます。

文化厚生委員会の方をはじめ、自治会役員、民生委員、婦人会の方々が協力して、会場準備や案内、接待などをします。

三橋きくよさんの司会で、先ず熊沢藤俊自治会長の挨拶で始まり、北畠智恵子さん他による大正琴で「島原の子守歌」他が演奏されます。ついで河藤幸多香会会主の「四季の寿」、門下の方たちのおやかな舞踊が行われます。寿会、泉流の舞の後、安藤さん他のフォークダンスがあり、昼食。

みんなで楽しくお弁当をいただいた後、午後はマジックショー、甚句、河藤幸多香会会主の「母子守唄」や門下の方たち、洋美会会主の「江差恋唄」他、門下の方たちや花月流の踊りがあります。最後に文化厚生委員の方たちの「船頭小唄」が披露され、文化厚生委員長高橋栄作さんの閉会の挨拶の後、恒例の「好きになつた人」を全員で踊って終る予定です。

花に囲まれた憩いの広場

町内を散歩して美しい芝生でゲートボールを楽しんでいる方達を見つけた。「正規の場所より狭いが四季折々美しい花に囲まれて、ゆったりとした気分が球を転がして楽しんでいける。勝敗はぬきにして健康と親睦のために憩いの場として愉快に過ごしている。無欲な地主さんのご厚意で、楽しく遊ばせてもらい本当に有難い。」と利用者らは話された。



憩いの広場で

週二回集まる休憩室でのお茶飲み話もまた楽しいとのこと。

「ふれあいの場ならんこと願いつつゲートボール場作りくれたる心算し」の額が飾られていた。快い球音と賑やかな笑い声、お話を聞きたまいます。

第四町内

ともしびパトロール

第四町内では安心して生活できる町づくりを旨とし、警察をはじめ、町内役員、関係7団体の皆様の深い理解と協力で、週一回のボランティア活動として、防犯パトロールを実施しています。

俳句

平塚司郎選

茅花会

湯川 章一
手で押して貨車を動かす草いきれ

夏草の茂った操車場での作業は、夏場は大変な作業だろう。ふっと息を入れる顔に草いきれがかぶさる。

のぞき込む滝壺泡と音ばかり
藤村 球子
祭髪きりりと太鼓打ち出しぬ

きつちりと結い上げた髪に、ねじり鉢巻をのせた姿を見るさえ祭気分が盛り上ってくる。その若い人が太鼓を打ち出した。新涼の水輪をくぐる亀の顔

長島 久江
盆踊り手足揃はぬ子が二人
親にまじって盆踊りの輪に入る

◎6月・8月の実績
(1)「ともしびパトロール」13回
(2)警察官との合同パトロール3回
◎主な活動の内容
犯罪の抑止力をメインとして、
(1)環境整備のあり方の検討
(2)防犯灯の故障の連絡
(3)放置自転車の処理
(4)無灯火自転車の注意の呼び掛け
「継続は力なり」のように、皆様の負担を大きくしない範囲で息の長い活動を継続していきたい。
8月27日(火)の「交番の日」には、鶴が台、西久保交番の警察官と警察犬2匹が参加し盛況だった。



放置自転車の処理

竹落葉

長谷川 千尋

春寒し愚痴言へる夫いまは亡く
春炬燵凡妻ひとり遺されて
石置ける屋根に崖より落椿
口髭に飯粒ひとつ山笑ふ
帯解きてどつと覚ゆる花疲れ
矢車の阿夫利の風を日もすがら
梨の花月の蒼きに濡れるたり
浜降祭練りてもみ合ふ荒御輿
苗売や残りを呉れてひと日終ふ
虚飾なき齢なりけり竹落葉

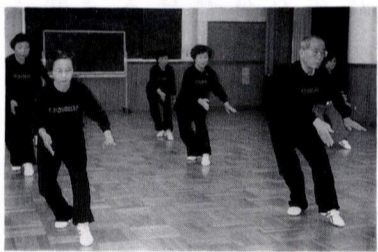
募集

太極拳を

やりませんか

最近とみに全国的にブームになっている、中国に古くから伝えられている太極拳、太極剣、内臓の気功の三つを練習しております。太極拳は体によく、年配の方にも無理なくでき、またこれは一生続けれられます。

ご一緒に
にやり
たい方
は、ぜ
ひお電
話を下
さい。



太極拳の練習

連絡先 山田賢治(52)六九〇〇
〇サークル名 太極拳 桐
〇練習場所 香川公民館
〇練習日 毎週水または木曜日
〇時間 9時半～11時

香川に住んで思うこと

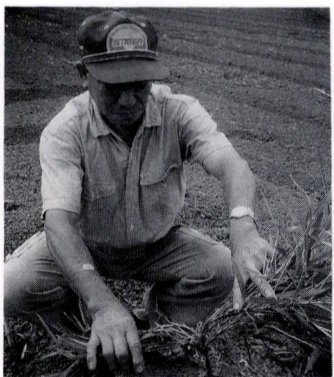
香川に住んで30数年になります。住む環境はもちろんのこと、色々な点での変化に驚く今日この頃です。特に最近目につくことは子供の遊び方についてです。我家にも小学生の子供が三人いますがほとんどいいいほど外で遊ぶことがなく、毎日家でファミコンかおもちゃで一日ゴロゴロしながら遊んでいく状態です。

私の小学生の頃といたら、当然今ほど家もなく、田畑や山も沢山あり、環境は今とは到底比べものにはなりません。ほとんど外の遊びが中心でした。ですから、夏休みを終え二学期が始まる時はたいのいの子供は真黒に日焼した顔がとて印象的なのを思い出します。でもすべて子供に責任があるわけでもなく、大人も反省すべき点はあると思います。それは常に安全性ばかりに重点を置き、危険なことはすべてダメと子供にしかつてきた事や、何でも買ひ与えることで解決させようとした事が、子供の遊びへの考え方を変えさせたよう気がします。

第二町内会 伊藤素明

加子の支柱が根づく

さし木でついた竹



今年5月に新倉栄一さんが、加子の支柱に、近くに生えていた竹を使ったところ、150本の支柱の中であたった一本だけ、根づいて青々とした葉が茂っているのに気がつきびっくり。話を聞いた専門家も「挿し木で竹がしたのは初めてでたいへん珍しい。」と話された。「移植によい時季になったら庭に移して育ててみたい。」と、新倉さんは今から成育を楽しみにしておられます。

訃報

(9月13日現在)

清水 林造様	80才	7月7日
第一町内会	16組	
伊藤 義栄様	83才	7月10日
第一町内会	1組	
岡林 繁行様	76才	7月22日
第二町内会	33-1組	
川田 重造様	72才	7月23日
第二町内会	36-1組	
熊澤 潤様	23才	7月30日
第四町内会	32組	
小野 新吉様	85才	8月15日
第二町内会	29-1組	
大島 栄様	67才	8月21日
第四町内会	9-1組	
熊沢健之助様	94才	9月1日
第四町内会	4-1組	
吉川 ヒロ様	61才	9月4日
第四町内会	38-1組	
大場 道夫様	70才	9月8日
第一町内会	32組	

謹んで哀悼の意を表し、心から冥福をお祈り申し上げます。